

自分の子供たちをどのように洗脳教育すべきか

ある時、ある長老（60歳くらい）の方と話をする機会があった。彼には後継ぎの長男、大学を卒業して公務員になった二男、ある農業団体に務めている長女がいる。

彼は「自分の農業団体に務めている長女を絶対、農家の嫁にさせない！」と言う。私は「どうしてですか？」と聞いた。

彼は「農業なんて儲からないことは知っているし、農業団体にいる長女も各農家の実情を知っているのだから、むだな苦労させる訳にはいかない」。そして、「この間、家族会議を開いたんだ。次男は優秀な大学を卒業して公務員になったので、頭はあんまり良くない長男が農業をすることになった。ただ、問題があるんだよな」とも発言。

「なんですか？」とさらに突っ込んで聞いてみた。

「いい歳になるその長男に嫁さんがこないんだよな、農協の青年部にも入っているし、地区の行事やいろいろな役もやっているのになぜだろう？」とマジ顔で尋ねてきた。

私は「生まれた子供が英語を喋れる米国かフィリピンの女性が良いですよ」と言ってみたが、彼は「冗談

じゃない！」とご立腹の様子だった。

怒られたついでに「長女を儲かる農家に嫁に送り、優秀な二男を就農させ、頭の良くない長男を町長選で献金した新町長にコッソリお願いして、ゴミ収集車に乗せてしまおうのどうですか？」と提案した。

彼はバージョンアツプして怒ってしまった。なぜだろう？もちろんその後、彼の長男が結婚したと言う話は聞いたことはない。

こんな話もある。

30代の農業団体所属のA君は、地区の農家とよく話をするところがあるらしい。

ある地区で「オレの息子はバカで独身だから農家をやめた方がいいかな？」とA君に聞いてきたそうだが、「そうです、離農した方がいいですよ」とは、即答はできなかつたそうだ。こういう場合、心理学的には相手に同意を求めているのだから、「離農した方が良いでしょう」と言われたのだらう。この農業団体に所属する彼は、農家の息子ではな

Vol.8 人がいなけりゃ誰かが耕す



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンドイヤ代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約8000万円。

いが、まだどのような農家が生き残れるのかわかっているのであろうか。まさか所属する農業団体がなければ、農民は生き残れないと思っているのかも。冗談好きのA君の性格を考えると。たしかに、農家としてマトモであれば農業団体に働こうとは普通思わないが、非農家の就職先としては、公務員と違いハンカクサイ農家だけを

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

相手にしていれば良いのだから、**大変なお仕事だ。**

私は愛する奥様から「たしかに、あなたはバカではない、でも東京大学を卒業して甲種公務員試験に合格して財務省で働いているわけではない。現在の農業をみると、バカが農家をできないのはわかるが。本当に学力優秀な者が農家をしますか? つまり、あなたは半バカだからここまでやれたのよ」と言われ、納得してしまった。

ということ、跡取りの息子を半バカに育てなければいけないのか? これは非常に難しい洗脳教育になるかもしれない。やはり自分の子供たちは奨学金目当てに、敵をバツタバツと撃ち殺す米国海兵隊にまづ行かせて、勝者の論理を教えることに意義はありそうだ。

たとえば悪いが、学力だけでなった医者とは3代続いた医者とは医療に対する考えは同じなのだろうか。もしかして東大法学部卒で官僚になるのも、1代目と3代続いた者では国民に対する考え方が違うのであるうか、とても興味があるところだ。

企業の農業参入に賛成する なぜならば……

実は真剣に考えなければならぬことがある。私の住む地区において

も後継者の問題は深刻だ。30軒中、現役農家は20軒で、10年後には10軒、20年後には数軒しか残っていないであろう。その時の残っている者が現在の3倍から4倍の面積つまり100ha平均を請け負うことになる……:はずがない。

10haで満足している者は10haしかできない。現実には私のように規模拡大を続けている者にしか扱うことはできないだろう。別に自慢話をしていいのではない。10haで

ロータリー耕の上手な農家が1年後、100haでプラウ耕なしの不耕起栽培ができる能力は持ち合わせていない。

よく言われるガラバゴス諸島のように、世界からかけ離れた進化を今後日本が歩むことにはならない。そして平均が100ha程度の面積になれば米国の農機具を自然に使用することになり、遺伝子組み換えを含むハード、ソフト両面が理解できて規模拡大の意味が理解できるだろう。どう考えても現在の土地を財産としてかたくなに守る姿は醜い。

昨今の流行りで新規参入は是非か非の問がある。大いにやっていただきたい。できればお金をたくさんもった大企業には参入していただきたい。なぜか?

私と同じ年で、現在十勝において

花畑農場を経営する田中義剛氏はよくTVで「新規参入者には農地と住宅を付けてあげても良い」と発言している。

たぶん自分と同じ成功者が出てくることを信じているのだろうか、現実にはフォア・ナインつまり99.99%が失敗してトンズラするのがオチだ。

ではなぜ私は賛成するのか?

このようなことはあり得ないと思うが、そのような環境で農地が農地として自由に動くのであれば、トンズラした後の農地はどうなるのか? を想像していただきたい。行政が土地と建物を斡旋して失敗するのだから、その後、競売になるのが自然であろう。その競売になった物件を**私が安く購入するのである。**

そんなことはハゲタカファンドと呼ばれるアメリカの外資を中心としてバブル後のTOKYOで行なわれたことであり、さして驚くほどのことではないはずだ。

その他、新規参入組には、有機タケノコなどとトンチンカンなメニューを載せているある居酒屋チェーンは北海道八雲地区に直営の農場を持つていたが撤退した。

新聞報道によると土と肥料が馴染まなかった? そうである。

かわいそうな渡邊社長である。多分自分の意図した発言と違うのだから

うが、その環境で現在数十年も営農して、昨年天皇杯をいただいた酪農家はどう評価されるべきか?

トヨタが青森でニッチマーケットを対象とした野菜を栽培しているが、従業員はいかほどの給料をいただいているのであろうか。

アメリカにおいてもジョンディア、CAT、モンサントの出来の悪い社員を半分の給与にして直営農場で働かせて、そこで栽培、収穫された農産物を出荷して対価を得ているなどという話は聞いたことがない。

米国でうまく行かないことを神風が吹き、この日出る国で行なうことは、真珠湾攻撃を再開することよりも愚かなことだ。

特に大豆、コーン、小麦などの穀物などを扱うと言うことは面積あたりの収入が野菜やハウス物よりも落ちる。その環境(大豆、小麦栽培)の中で従業員に600万円の給与を払えるとしたら、戦勝国のホワイトハウスから大統領就任式のご招待が来るだろう。

再生可能なiPS細胞技術を用いて200歳まで生きようとする方たちにとってのんびり農業をやるのも良いが、85歳でススキノの、とある場所20歳のオネーチャンと**腹上死**するかもしれない者(私!)には時間を無駄にする余裕はない。